

この【七段】より、今まで滋実が死に至るまでのいきさつの推測から、既に死去しあの世に旅立った滋実の死を惜しみ悼む心情を詠むものに変わる。死者である滋実と生者である自分自身とが二人だけで真摯に対峙し、赤裸々な心情を吐露する内容が展開されて行く。

【八段】

原文

訓読

- | | | |
|----|-------|----------------|
| 57 | 君間泉壤入 | 君は間かに泉壤に入り |
| 58 | 我劇泥沙委 | 我は劇しく泥沙に委す |
| 59 | 天西與地下 | 天の西と地の下と |
| 60 | 隨聞爲哭始 | 聞くに隨ひて哭の始めと爲す |
| 61 | 哭罷想平生 | 哭すること罷みて平生を想ふに |
| 62 | 一言遺在耳 | 一言遺りて耳に在り |
| 63 | 曰吾被陰德 | 曰く吾陰徳を被りて |
| 64 | 死生將報爾 | 死生將に爾に報いとすと。 |

▼「人々の呪詛により命を落とした藤原滋実への哀悼」(その二)